

寒冷地の農業技術に関する国際シンポジウム(ISAC II) 出席、研究発表及びアルバータ大学との学術交流

辻 修

畜産環境科学科土地資源利用学講座

1. 目 的

寒冷地の農業技術に関する国際シンポジウム(ISAC II)出席、研究発表及びアルバータ大学との学術交流

2. 期 間

1993年7月30日から8月13日まで

3. 場 所

カナダ国アルバータ州エドモントンとその周辺

4. 内 容

第2回寒冷地の農業技術に関する国際シンポジウムが、カナダ・アルバータ州エドモントン市で開催され、これに出席、発表するため今回アルバータ大学を訪問した。このシンポジウムは、カナダ・アルバータ大学農林学部と北海道大学農学部、帯広畜産大学、酪農学園大学とが1985年8月に交流提携し、世界各国に分散している寒冷地農業の技術者が一堂に会し相互に交流を深め、活発な討論を通じて地域農業の関係者に情報を提供することを目的として、開催されている。

第1回のシンポジウムは、1989年9月に我が帯広畜産大学において開催され、今回私が出席したシンポジウムはそれを受けての第2回の開催であった。

シンポジウムの開催されたアルバータ大学は、カナダ・アルバータ州の州都であるエドモントンに位置する19学部からなる学生数は30,000人を数えるカナダ第2の総合大学である。

このシンポジウムの日本からの出席は、帯広畜産大学畜産管理学科の新出先生、畜産環境科学科の土谷先生と私の3名、北海道大学農学部の佐久間先生、酪農学園大学の原田先生、北海道農業試験場の松本主任研究員の計6名であった。

写真は、レジストレーション会場で行われた歓迎レセプションの様子である。歓迎レセプションといっても大学の学生ホールを借りた簡単な懇親会であり、我々日本人を除けば、皆さんカジュアルないでたちの人達であった。学会発表の前にこのような肩のこらない交流を行うことにより、シンポジウムがより一層内容のあるものとなるように感じられた一幕である。ちなみに、私の右隣り

に立っているのは、このシンポジウムの土壌侵食部門の座長を務められたアルバータリサーチコンサルのホイット博士であり、この懇親会を通してカナダの土壌侵食の現状や海外の土壌侵食の懇談ができたことは、私にとって非常に有益なものとなった。



歓迎レセプション会場にて

シンポジウムは口頭発表のみで行われ、次の4テーマに会場を分散し一般講演57題、特別講演2題で行われた。そのテーマとは、寒冷地における家畜の管理・栄養とその環境、寒冷地における土壌侵食、畑土壌の踏圧に対する土層改良、寒冷地における家畜飼料であった。

私はこの中で、寒冷地における土壌侵食のテーマ中の融雪水による土壌侵食分野において「北海道の傾斜地における農地造成地での土壌侵食問題」と題して発表した。発表後のコーヒープレイクで日本の土壌侵食に関心ある人達との会話を通して、広い意見交換ができた事でカナダまでやってきたかいがあるものと思った。

最後に、このような貴重な経験の援助をしていただきました帯広畜産大学後援会に深く感謝いたします。